

# 令和2年度 真庭市立天津小学校 学校評価(自己・学校関係者)評価書

|                                      |
|--------------------------------------|
| 学校長                                  |
| 岡崎晃治                                 |
| 学校関係者評価委員                            |
| 福島勝二、今石喜文<br>池本正行、辻本美由希<br>高島宏美、清水誠治 |

**自己評価総合所見**  
 「知・徳・体」のバランスのとれた教育活動を推進するために、「知」では、国語科を中心に児童同士がお互いの考えや意見を伝え合う授業を、「徳」では、道徳の授業の充実と人権教育の取組により「自分の命、人の命を大切にすること」の醸成を、「体」では、「体育授業力アップ事業」の指定校として教員の授業力アップや体育備品の充実を図ってきた。教職員が、共通意識のもと、この重点的な取組を行ってきたことが今年度の成果である。次年度も引き続き「自分の命、人の命を大切にすること」を中心に、児童がより主体的に学習に取り組み、自主的に学校生活を送れるように授業の改善と特別活動の工夫を行いたい。

| 評価領域      | 自己評価(3段階評価)                |   |  |  |  | 学校関係者評価(3段階評価)   |                           |  |
|-----------|----------------------------|---|--|--|--|--|---------------------------|--|
|           | 評価項目                       | 評価指標  | 評価方法・評価基準  | 評価アンケート結果  | 評価(自己)   | 結果の分析及び改善方策等   | 評価(関係者)                   | 自己評価に対する意見等  |
| 確かに学ぶ子の育成 | 主体的で対話的な授業改善               | ①授業の中で自分の考えを伝えたり書いたりすることができる。   | ①児アンケート<br>3:90%以上<br>2:70%以上90%未満<br>保アンケート<br>教アンケート<br>3:80%以上<br>2:60%以上80%未満                            | ①児アンケート 87%(2)<br>保アンケート 83.2%(3)<br>教アンケート 100%(3)                  | 2  | 国語科を中心に、児童が見通しをもって学習に取り組めるように、教師側は授業の流れを提示するなどの工夫を行ってきた。また、自分の考えを書いたり話し合ったりする時間の確保や、授業の終わりに「できるようになったこと」「さらにがんばりたいこと」などを中心に振り返る活動を行うことが各教科で日常的に行われるようになってきた。しかし、教師主導の授業が依然として多いことが課題である。次年度は、児童の主体性を引き出す授業づくり、個人差をカバーするための児童同士の学び合いの授業づくりを進めていきたい。 | 2                         | ・学習に関しては着実にレベルアップしていると感じる。<br>・見通しをもって学習に取り組めるようにするために、予習をして授業に臨むことも大切である。<br>・分かりやすい授業を心がけていることは評価できる。少人数指導などの取組の効果も表れている。<br>・低学年、中学年でも少人数指導を取り入れてみてはどうだろうか。また、算数に限らず他教科でも取り入れてみてはどうだろうか。  |
|           |                            | ②見通しをもって学習に取り組むことができる。(国語科)   | ②児アンケート<br>3:90%以上<br>2:70%以上90%未満<br>保アンケート<br>教アンケート<br>3:90%以上<br>2:70%以上90%未満<br>3:80%以上<br>2:60%以上80%未満 | ②児アンケート 94%(3)<br>教アンケート 100%(3)                                     |  |  |                           |  |
|           |                            | ③学習の振り返りで分かったことや考えたことを伝えたり書いたりすることができる。   | ③児アンケート<br>3:90%以上<br>2:70%以上90%未満<br>保アンケート<br>教アンケート<br>3:80%以上<br>2:60%以上80%未満                            | ③児アンケート 87%(2)<br>教アンケート 100%(3)                                     |  |  |                           |  |
|           | 基礎学力の定着                    | ④基礎的な知識・技能が定着している。  | ④各学期まとめテスト(国・算)<br>3:85%以上<br>2:60%以上85%未満   | ④国語 読解 90%(3)<br>言語 84%(2)<br>算数 知・技 82%(2)<br>思考 74%(2)             | 2  | 校内研究で取り組んだ国語科の読解力は正答率90%とよい結果である。算数の基礎的な知識・技能の定着はもう少しである。次年度は、算数の授業改善を進めていきたい。   | 2                         | ・家庭学習の定着のため、宿題を提出していない児童への対応が大切である。<br>・読書により広い知識を得、多様な価値観を学ぶことができる。1週間で30分以上という目標は最低限達成すべきと考える。保護者から読書に親しめる環境づくりをしてほしい。   |
| 家庭学習の推進   | ⑤計画を立てて家庭学習をしている。          | ⑤児アンケート<br>3:90%以上<br>2:70%以上90%未満<br>保アンケート<br>教アンケート<br>3:80%以上<br>2:60%以上80%未満 | ⑤児アンケート 88%(2)<br>教アンケート 72%(2)  | 2  | 家庭学習のレベル表を作成し、学期ごとに児童と確認をしていった。家庭学習の習慣化は図れたが、家庭学習の時間や内容のレベルアップは不十分である。次年度は、課題の内容を工夫していきたい。         | 2  | ・次年度、朝読書を充実させることはよいことである。 |  |
| 読書活動の推進   | ⑥1週間の中で30分以上読書をする日が1日以上ある。 | ⑥児アンケート<br>保アンケート<br>教アンケート<br>3:80%以上<br>2:60%以上80%未満                            | ⑥児アンケート 80%(3)<br>保アンケート 54.7%(1)<br>教アンケート 86%(3)   | 2  | 学期ごとの読書週間の設定や、図書委員会の読書スタンプラリーの取組などにより児童が読書に親しめるようになってきたが、日常的な読書活動につながっていない。次年度は、朝読書の時間の確保により改善したい。 | 2  |                           |  |
| 心豊かな子の育成  | 道徳の授業改善                    | ⑦多様な価値観に触れることのできる道徳の授業をしている。  | ⑦児アンケート<br>教アンケート<br>3:80%以上<br>2:60%以上80%未満   | ⑦児アンケート 95%(3)<br>教アンケート 100%(3)                                     | 3  | 児童がお互いの考えを伝え合う活動を取り入れた道徳の授業を行うことができた。次年度は、さらに多様な価値観に触れることができるようにゲストティーチャーを招いたり、児童がより感情移入できる動画資料を活用したりといった工夫を行いたい。  | 3                         | ・コロナウイルス感染症への指導を通して、相手を思いやる教育が学校だけでなくでも伝えられ、人権教育に幅広く取り組むことができている。<br>・多様な価値観に触れるために、道徳の授業の中で地域の方などをゲストティーチャーとして招くのはよいことである。<br>・「いじめ0」ではないことは残念である。<br>・思いやりを育む教育、表面化していないいじめへの対応を大切にしていきたい。 |
|           | 人権教育の推進                    | ⑧友達に思いやりをもって接することができる。(インクルーシブ教育の視点を含む)   | ⑧児アンケート<br>保アンケート<br>教アンケート<br>3:80%以上<br>2:60%以上80%未満   | ⑧児アンケート 96%(3)<br>保アンケート 84.2%(3)<br>教アンケート 100%(3)                  | 2  | 人権教育担当を中心に年間を通して「人を大切にすること」の醸成を図ってきた。アンケート結果に取組の成果は表れているが、「いじめ0」ではない。次年度は、開発的生徒指導により「いじめ0」を目指したい。  | 2                         |  |
|           | あいさつの推進                    | ⑨自分から進んであいさつができる。   | ⑨児アンケート<br>保アンケート<br>教アンケート<br>3:80%以上<br>2:60%以上80%未満   | ⑨児アンケート 88%(3)<br>保アンケート 80%(3)<br>教アンケート 86%(3)                     | 2  | ほとんどの児童が朝のあいさつを自分からできるようにしている。しかし、気持ちのよいあいさつのできる児童は、半数ほどである。次年度は8割以上の児童が気持ちのよいあいさつができるように児童主体の取組を仕組みしていきたい。  | 2                         | ・思いやりや気持ちのよいあいさつなどは、親が一番の見本だと思う。<br>・おおむねあいさつはできている。相手の顔を見てできればさらによい。また、もう少し大きな声でできればよい。   |
| たくましい子の育成 | 体育授業の改善                    | ⑩運動の苦手な児童が運動のおもしろさを味わうことのできる授業を行っている。   | ⑩児アンケート<br>教アンケート<br>3:90%以上<br>2:70%以上90%未満   | ⑩児アンケート 95%(3)<br>教アンケート 80%(2)                                      | 2  | 運動の苦手な児童も意欲的に参加できる活動や場の工夫の行われた授業は増えた。次年度も各学期の重点領域を設定して授業改善を進めたい。   | 2                         | ・バランスのよい遊びを仕組んでいくことは大切である。<br>・昔遊び等で、頭と体を使う遊びはよいのではないだろうか。<br>・休み時間に体育館を活用することで遊びの種類が増えるのではないだろうか。   |
|           | 運動習慣の向上                    | ⑪外で元気よく遊んでいる。   | ⑪児アンケート<br>教アンケート<br>3:90%以上<br>2:70%以上90%未満   | ⑪児アンケート 93%(3)<br>教アンケート 100%(3)                                     | 3  | 年間を通して外で元気よく遊べる児童が多い。サッカーなど遊びの内容が固定化しているため、次年度は児童の遊びの種類を増やす取組を行いたい。  | 3                         | ・基本的な生活習慣の確立に向け、家庭と連携した取組の継続が必要である。<br>・コロナ禍でもあり、家庭時間が増えているので、家庭内でしっかり会話をし、一緒に楽しめることがあれば、ノーマディアにもつながる。   |
|           | 生活習慣の改善                    | ⑫低学年は9時半、高学年は10時まで寝ている。<br>⑬朝ごはんをきちんと食べている。                                       | ⑫⑬児アンケート<br>保アンケート<br>教アンケート<br>3:90%以上<br>2:70%以上90%未満  | ⑫児アンケート 86%(2)<br>保アンケート 78.9%(2)<br>⑬児アンケート 97%(3)<br>保アンケート 98%(3) | 2  | 保護者アンケートからメディアに関するきまりをつくっていない家庭が約半数あることが分かった。ゲーム等により不規則な生活になっている児童が複数名いる。次年度は家庭との連携によるメディアコントロールの取組を行いたい。  | 2                         |  |
|           | 安全教育の推進                    | ⑭安全に生活できる。  | ⑭児アンケート<br>保アンケート<br>教アンケート<br>3:90%以上<br>2:70%以上90%未満   | ⑭児アンケート 99%(3)<br>保アンケート 88.4%(2)<br>教アンケート 100%(3)                  | 2  | 計画的な避難訓練等を通して、災害時や不審者に対する意識の向上を図ることができたが、下校時の歩行の仕方など交通安全意識には課題がある。次年度は、下校指導や地域の交通パトロールとの連携による指導を強化したい。   | 2                         |  |

・指導の重点をしぼり、評価をスリム化しており、今年度の取組の成果と課題が明確になっている。  
 ・次年度に向けてのすべての項目で改善点をはっきりと示している点は非常に評価できることである。  
 ・保護者との連携による、読書活動の習慣化、気持ちのよいあいさつの励行、よりよい生活習慣の確立をさらに進めてもらいたい。

・次年度も指導の重点の焦点化を図り、教職員が共通意識のもと「知・徳・体」のバランスのとれた教育活動を推進していく。  
 ・児童が主体的に学ぶ授業改善、自分と人を大切にすることの道徳教育と人権教育のさらなる推進、遊びの内容の工夫による体力づくりの取組を行う。  
 ・家庭、地域との連携をもとに、家庭学習の定着、読書活動の推進、あいさつの励行、よりよい生活習慣の確立、安全意識の向上の各取組を次年度も引き続き行う。